

健常ドライバーにおける 運転時の視野可視化の試み



桔梗ヶ原病院
園原和樹

2022年12月3日
第46回日本高次脳機能障害学会学術総会

はじめに

- ・ 脳血管障害の後遺症の中で、視覚に関連した症状として半盲（視野欠損）と半側空間無視がある。過去報告によると、半盲は運転能力に影響することが指摘されているが、現在の日本の道路交通法では半盲患者の運転可否について明確な基準は存在しない。
- ・ 視野を測定する方法には、動的視野検査と静的視野検査の2つが存在する。視野検査は眼科学領域を中心として発展してきた検査方法であり、視野検査の結果から（Ⅰ）患者の視野を現実世界に重ねてイメージすることが難しい、（Ⅱ）視野欠損が運転能力に与える影響を推察することが難しいとの課題が存在する。

目的・対象

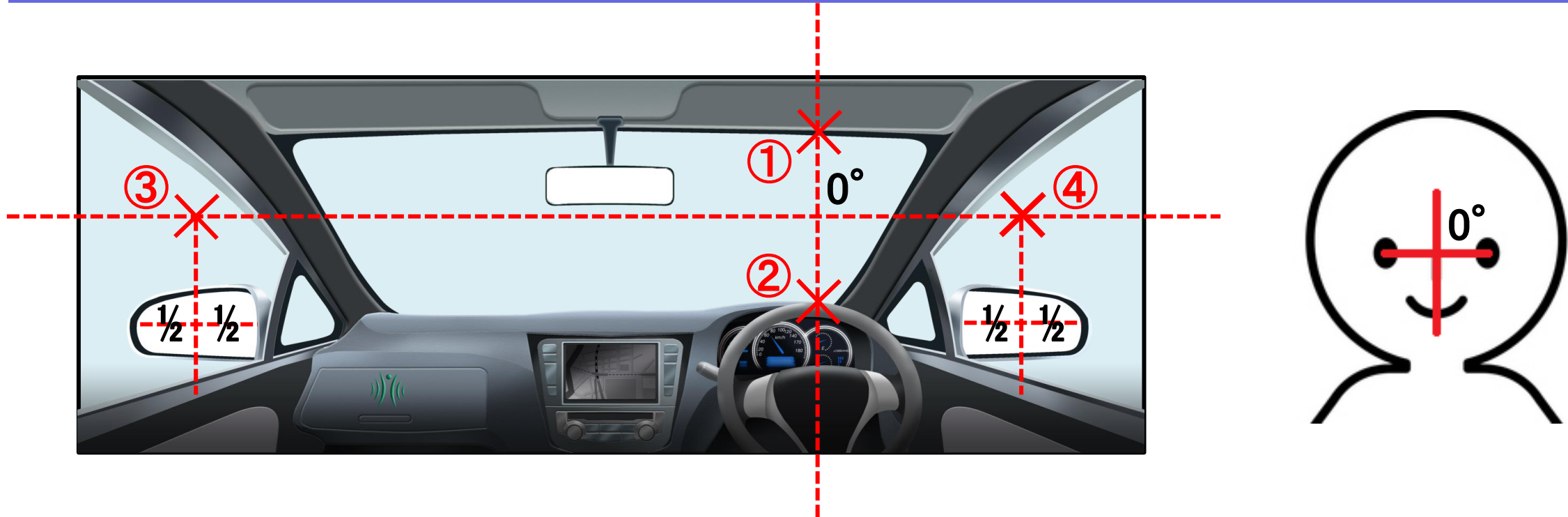
【目的】

今回我々は、健常ドライバーが運転している時の視野を可視化することを目的として、普通自動車を用いた視野角度の測定を行った。

【対象車両】

普通自動車10台（軽自動車, SUV, 大型自動車は除外）

方法



- I. 評価者が運転席に座り、正しいドライビングポジションを取る。
- II. 真正面を見た状態で、視野角度4カ所(フロントガラスの上縁①・下縁②, サイドミラー中央の左③・右④)の測定を行う。
- III. 得られた視野角度の平均値を算出する。

結果

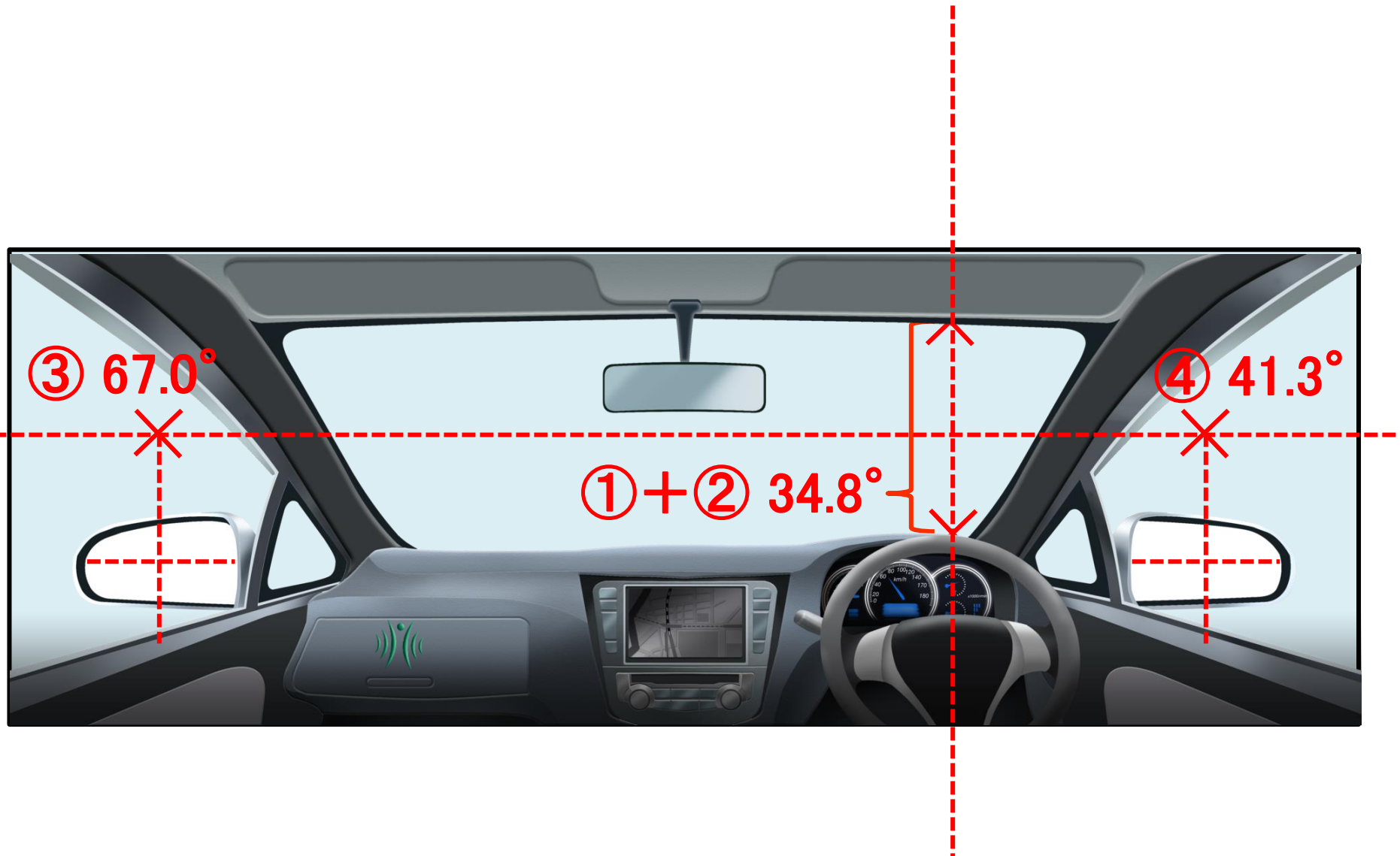
【車両情報】

- I. 全長 3954mm (範囲 3625 ~ 4570)
- II. 全幅 1675mm (範囲 1610 ~ 1695)
- III. 全高 1597mm (範囲 1490 ~ 1720)

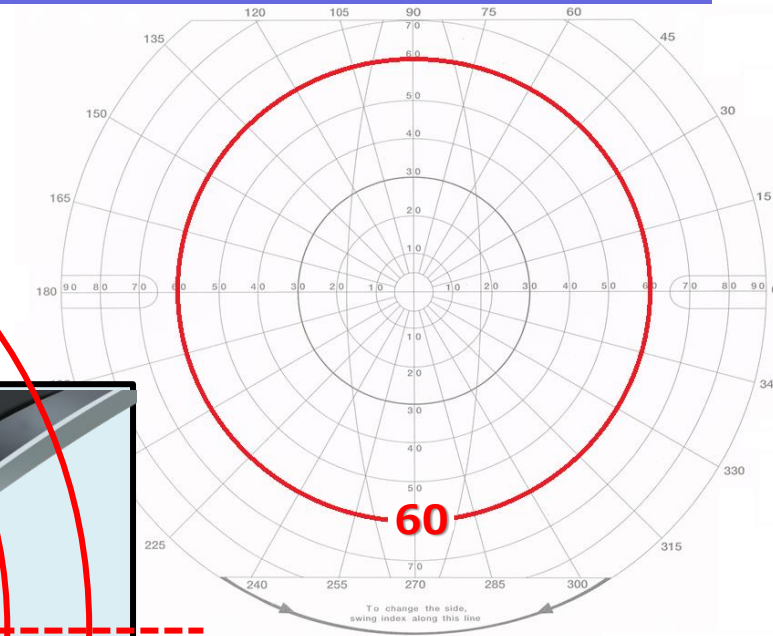
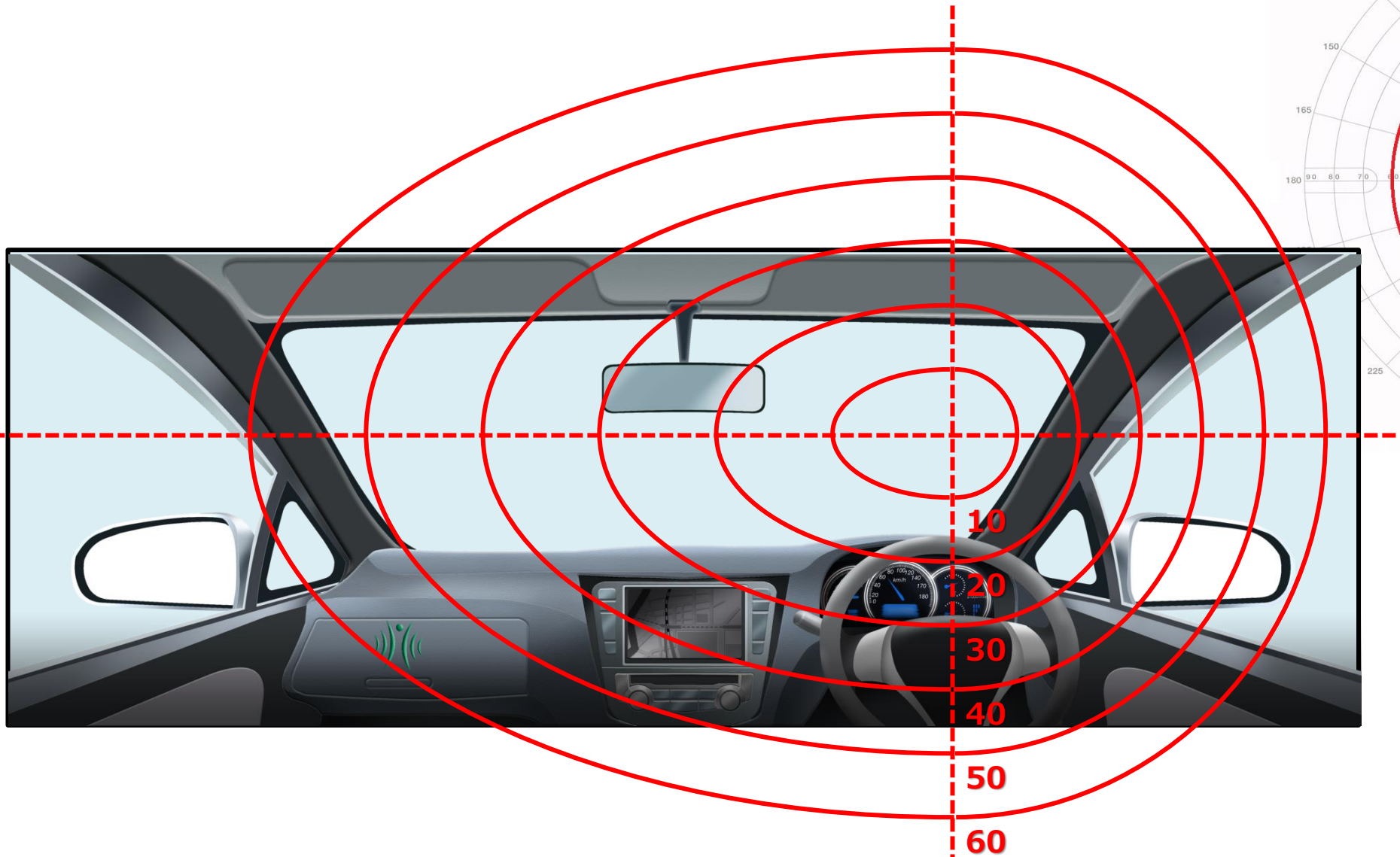
【視野角度】

- I. フロントガラスの上下 34.8° (範囲 $27.5 \sim 45$)
- II. 左ミラー中央まで 67.0° (範囲 $60 \sim 80$)
- III. 右ミラー中央まで 41.3° (範囲 $30 \sim 50$)

健常ドライバーにおける運転時の視野画像①測定結果



健常ドライバーにおける運転時の視野画像②視野角度



最後に

I. 普通自動車10台の測定から得た視野角度をもとに、車両の内面図と視野を重ね合わせた「健常ドライバーにおける運転時の視野画像」を作成した。

II. 健常ドライバーにおける運転時の視野を可視化することで、患者の視野を現実世界に重ねて考えることが可能となった。